日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の２　TEL &FAX　52-3097　2013年１月１日（日）第1443号(１)

民報ゆうばり

憲法・原発・消費税・ＴＰＰ・社会保障

いのちと暮らしを守り抜く参議院選挙に！

2013年1月元旦
明けましておめでとうございます

夕張の財政破綻は、国と道の責任が大きい！
債務カット・再生計画の期間短縮で、子どもたちに明るい未来を！

日本共産党夕張市委員会
「民報ゆうばり」編集委員会

迎春

夕張労働組合総連合
議　長　筒井　勇治
事務局長　熊谷　泰昌
夕張市末広一丁目１０７
（建交労事務所内）
TEL　５２・２１６４

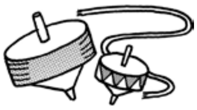
新日本婦人の会夕張支部
支部長　久世　公子
事務局長　滝口　洋子
夕張市清水沢清陵町１２
（夕張厚生企業組合内）
TEL　５９・５０２７

全日本年金者組合夕張支部
執行委員長　筒井　勇治
副委員長　崇本　好枝
夕張市末広一丁目１０７
（建交労事務所内）
TEL　５２・２１６４

全日本建設交通一般労働組合
委員長　野呂　義則
書記長　安部　秀一
夕張市末広一丁目１０７
（建交労事務所内）
TEL　５２・２１６４

＊日本共産党夕張市委員会　ｅーメール　jcp.yubari@gmail.com　HP　http://pub.ne.jp/jcpyubari/　もぜひご覧ください。

新春によせて



日本共産党参議院議員

紙　智子

「参院選の年、必ず勝利を」

さきの総選挙の結果は、国民を裏切った民主党政権への厳しい審判が下されました。自民、公明両党で三分の二を超える議席を得て再び政権を復活することになったとはいえ、国民が期待を寄せた結果ではありません。これまで、はたやま和也さんをはじめ日本共産党に寄せていただいた皆さんの政治変革への熱い期待は、必ず今後に生かします。

政治を動かすのは、ひきつづき国民の世論と運動です。「放射能の危険から子どもたちを守りたい」「人間らしく働ける雇用と社会保障を」「食糧基地北海道の農業と食の安全を守りたい」と道内で広がった共同のたたかいをいっそう発展させましょう！消費税ノー！泊も大間もいらない！再稼働反対！ＴＰＰの交渉参加断固阻止！そして、憲法九条を守り、憲法を暮らしのすみずみに生かす政治への転換をはかるためにも、増税・改憲勢力と正面から対決する日本共産党の躍進、参院選で勝利できるように、お力をお貸しください。私も全力でがんばります。

日本共産党
参議院議員

大門実紀史

「悔しさ晴らす参院選に」

今年は参議院選挙の年。衆院選の悔しさを思いっ切り晴らす選挙にしようではありませんか。

紙智子さんは、農業や社会保障の問題など、道民の切実な要求を何度も国会で取り上げ実現のために奮闘して来ました。このかけがえのない議席を守るためにも、急速にすすむ憲法改悪の動きを阻止するためにも、ご一緒に頑張りましょう。

日本共産党准中央委員
道政策委員長

はたやま和也

「憲法改悪を許さない年に」

総選挙後、挨拶にまわると「今度こそ頑張ろう！」との激励や、自民圧勝の心配から、「休む暇なく頑張らないとね」との声がかけられます。憲法改悪を許さない大きな世論づくりに励み、くらしと地域経済を守る党の姿がもっと多くの人に見えるようにしていきたい。そして参院選勝利・紙智子議員の三選へ！私も全力を尽くします。

くまがい桂子の木もれ日あびて

日本共産党　夕張市議

くまがい桂子

「国民運動～いよいよ本番です！」

一昨年、暮から活動を始めた被災者支援ネットワーク夕張夢再生館。昨年夏には福島から５家族の被災者をお迎えし、保養に協力。新年度も被災者支援のため、取り組みが進められています。

放射線被曝量については、年20ミリシーベルト（Ｍｓｖ）の避難基準に「科学的根拠に欠ける」と日本医師会が声明をあげ、日弁連も会長声明を出し、多くの環境ＮＧＯや市民が撤回を求めましたが、１Ｍｓｖを目標とするとしながら文科省はその期限を示していません。

また、文科省が学校用（小・中・高）に作成した副読本でも、一方的な政府の意見だけを押しつけ、正当化に利用しています。本来、異論の多い政策については両論を併記し、教育・学問の自由を保障して、判断力を養うのが教育行政の役割ですが、その務めを果たしていません。教育を利用した事故隠し・汚染隠しに加え、放射線の危険性隠しのための副読本としての記述ばかりが目立つと批判もされています。

さらに、年末の衆議院総選挙では、マスコミを総動員しての世論誘導や投票誘導、その上、４割の得票で８割の議席を奪った小選挙区制度のゆがみがあきらかになりました。

さて、日本国憲法の第９条や基本的人権などまで改定を狙う、安倍自公新政権。総選挙が終わっても、がっかりしたり一息ついている暇はありません。

参議院選挙の年。事実を知らせ、国民主権の運動を大きく広げるときです。